

Q 国語科ワークブックの実際の使い方を知りたい！

茨城県・A先生の使い方

授業・宿題の両方で使っています。授業では写真資料を使うことがあります。ワークブックの問題を口頭で質問して答えさせることもあります。語句・漢字は新しい教材に入る際に予習として指示し、他の問題は復習として授業毎に指示します。定期テスト前に提出させて点検し、定期テストにワークブックの問題を出題していますので、生徒はきちんと取り組んでいます。



広島県・B先生の使い方

毎授業ワークブックを使用します。通常は10分から20分ぐらいワークブックの時間にあて、読解問題を扱っています。丸付けは各自で行い、わからなかった問題は赤ペンで答えを写させ、後日もう一度取り組むように指導しています。赤ペンで写させることで、どこでつまずいているかの把握が容易になります。定期テストでは、ワークブックの記号問題を記述問題に変えるなど類題を出題しています。



愛知県・C先生の使い方

題材にもよりますが、基本的な授業の流れは「教科書で文章全体を一度読む」→「ワークブックで全体をとらえられるコーナーをやる」→「教科書で文章を順に読み解く」→「最後の1時間でワークブックの問題を解く」。授業中にできなかつた問題は宿題にし、定期テスト1週間前と定期テスト当日の2回、回収・点検しています。



三重県・D先生の使い方

主に家庭学習で使用していますが、語句の意味調べは授業中に国語辞典を使って一斉に取り組んでいます。また、戦争や古典が題材のときは、ワークブックの資料ページを導入に使っています。1年生のうちは、単元ごとに細かく範囲を区切って宿題に出し学習習慣をつけさせていますが、2・3年生は定期テストまでに自分で計画を立て取り組むように指導しています。



新潟県・E先生の使い方

ワークブックは基本的に宿題にしています。授業ノートとは別にワークブック用に1冊ノートを作らせて、1回目はそのノートに書かせ、2回目はワークブックに書き込ませています。なかには自主的に3回解いている生徒もいます。定期テストのタイミングで回収・点検し、関心・意欲・態度の評価の参考にしています。

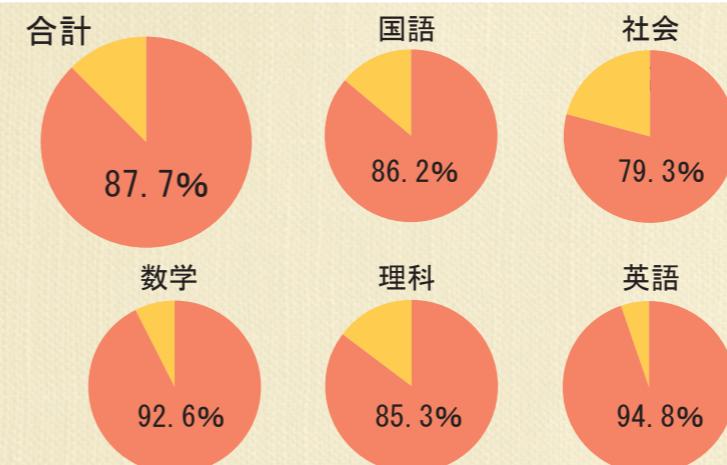


ワークブックその他の教材についてお知りになりたいことがありましたら、教材販売店までお気軽にお問い合わせください！

ワークブックをご活用ください！

Q ワークブックとはどんな教材？

全国で約90%の先生方が採用している、指導に欠かせない教材です！



● 採用率

ワークブックは、教科書に沿って（または、その教科の年間の学習内容や学習順序に沿って）、基礎的・基本的な知識の確認と技能の練習から、それらを活用した学習活動（資料活用、表現等）まで、幅広く、かつていねいに編集された教材です。

2012年 一般社団法人 全国図書教材協議会の調査による

Q なぜ、ワークブックはそんなに多くの先生が使っているの？

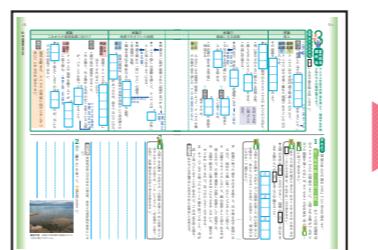
① 「年間1冊」のわかりやすさと達成感があるから

ワークブックは1年間の学習内容を1冊にまとめたものです。「この1冊を仕上げればいいんだ」というわかりやすさと、1冊やり遂げる達成感が、生徒の学習意欲の向上に役立ちます。

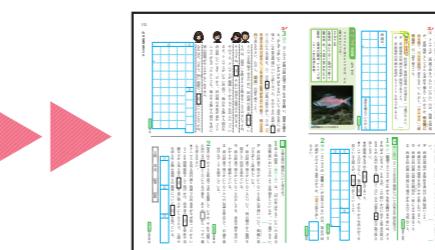


② ワーク1冊あれば、授業・家庭学習など、あらゆる場面で活用できるから

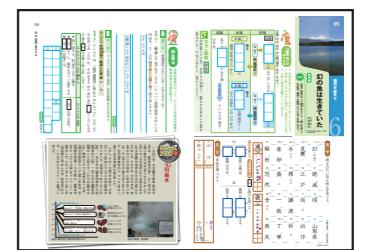
ワークブックの多くは、小単元に対応したページに加え、単元ごと、学期ごと、学年末などの区切りに対応した復習ページや、生徒共通の弱点に対応した特集ページが随所に設けられており、学習の場面に応じたさまざまな使い方が可能です。



小単元対応ページ



単元末 基本のチェック問題



単元末 テスト形式問題

国語 ワークブックをご活用ください！

③ 豊富な写真や図版、イラストで楽しく効果的な学習ができるから



多くのワークブックはカラー印刷で、写真や図版、イラストが豊富に掲載されています。生徒の興味を引き付け、内容の理解をより深めるのに役立ちます。

もちろん、シンプルに問題に取り組ませたいというご要望にお応えする、1色または2色のワークブックも発刊されています。

check!

図書教材の複写複製利用については、著作権法第35条の「ただし書き」において、禁止されています。

Q ワークブックの中身はどうなっているの？

一般的なワークブックの通常誌面は、下図のようになっています

このような誌面のページに加え、単元のまとめ問題、数単元のまとめ問題、弱点補強特集などがありますので、どんな先生の指導スタイルにもあわせて活用していただくことができます。

単元タイトル・ねらい
(要点のまとめ)

もっとも基礎的な
知識や技能の問題

標準的なレベルの
練習問題

知識や技能を活用する
問題

Q どんな場面でどんな使いができるの？

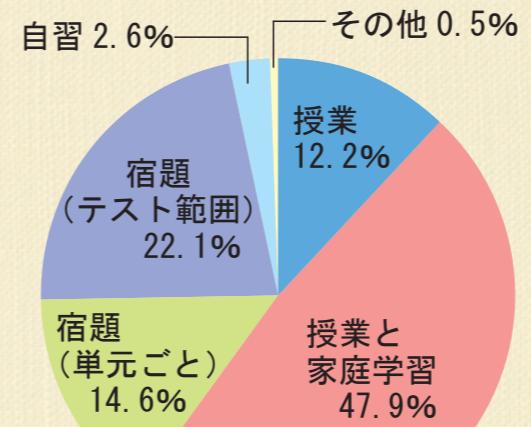
予習では…

- ①単元タイトルとねらいを読ませておく。
 - ②単元の学習内容のまとめを読ませておく。
 - ③語句の意味調べを記入させておく。
- など

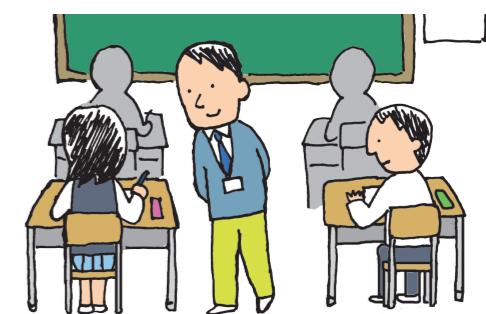
授業では…

- 全員が取り組める基本的な課題として
- ①もっとも基礎的な知識や技能の問題に取り組ませる。
 - 指導が必要な生徒に対する指導をしやすくするための課題として
 - ②標準的なレベルの練習問題や知識や技能を活用する問題に取り組ませる。
- など

ワークブックの使用場面



2012年 一般社団法人 全国図書教材協議会の調査による



復習では…

- ①予習や授業で取り組んだ残りの部分を宿題として取り組ませる。
 - ②単元末のまとめや定期テスト前の復習課題として取り組ませる。
- など



④ 標準的な問題内容で、もれなく・かたよりなく、使いやすく！

ワークブックは、学校教材専門の出版社が編集・制作し、全国の学校専門の販売店を通して提供しています。学校の実情に詳しく先生方の身近にいる業者が、学習指導要領や教科書の研究を土台に、全国の学校の情報を集めて編集しているので、もれなく・かたよりなく、しかも学校でいちばん使いやすい教材を提供しています。

⑤ 独自の調査・分析で適切さを確保

ワークブックを発行している出版社の多くが加盟している日本図書教材協会では、検定制度のない教材に対する「学校教材調査会」を設け、大学教授と現職の中学校教諭で構成される調査委員により、加盟出版社の教材の1ページ1ページ、1問1問の適否を分析してフィードバックし、次回の教材編集に活かす取り組みを行っています。

⑥ 1年間に必要な修得教材を安価で

ワークブックは1年間の学習の軸となる教材を、生徒一人あたり数百円で提供しています。